ふるさと大館へ

大館ふるさと会からのたより③

副会長
真壁　貞子さん

桜には表情がある。東京の桜はどこかすましているようで、でもふるさと大館の桜はどこまでもあどけない姿である。

去る四月二十日、逓信記念日に大館ふるさと会会長竹村堅次氏の代行として大館郵便局の一日局長の任務にあたり、貴重な体験をする。逓信記念日のいわれは古く、明治三年にさかのぼる。前島密氏が正確迅速な郵便制度の実現に努力された結果、昭和九年四月通信事業特別会計制度が発足、その第一歩が四月二十日の逓信記念日であり、今年で六十二回目を迎えた。

郵便業務などお客としてカウンターの外側しか知らない自分が、まさかカウンターの内側に立たされるなんて夢にも思っていなかった。歴史の重みと二度と来ない歳月のきざみ、それをハートでこなしている職員の笑顔が忘れられなかった。郵便業務は、時間の流れが命であり、形として確認しなければならない。たった一枚のはがきの消印にも、もう帰ってこない自分の姿が見える。何げない日常のリズムの尊さがある。厳粛な中にもさわやかな平川局長の開式の辞、表彰、来賓祝辞とつながるが生活へのいとおしさが伝わる。

なお、この逓信記念日を記念して「ゴミ収納箱」が長根山町内会へ贈呈された。鳳凰山を背景に生活する町内会にぴったり。杉のまさ目が川の流れのようだった。

初めての経験ではあるが、皆様の善意に見守られて無事、任務を果たすことができた。もう散っているだろう東京の桜のかそけき音が帰途の車中の眠りを心地よく誘ってくれた。まさに「アイラブおおだて」の一端を垣間見た逓信記念日の一日であった。

これなあに？

ちょっと気になる名前

「今度渡橋」

矢立峠の入口（陣場）にちょっと変わった名前の橋があります。その名が今度渡橋です。

明治12年ころは矢立峠に３つの橋があったそうです。しかし、今度渡橋はなく当時その場所は瀬渡りとなっていました。同14年９月11日、明治天皇が東北行幸のため青森方面から峠越えしてきた際、もう峠が終わったと思ったら難所がまだあり、一行の交通は難渋した。これを見かねた明治天皇が「今度渡るまでに橋を架けなさい」と言われたことからと伝えられています。

この橋は、それから７年後の明治21年に完成し、昭和33年に現在のような永久橋となっています。

私の本棚

中央図書館新着図書

『大佛次郎敗戦記』

大佛次郎著　草思社

昭和十九年九月から二十年十月十日までのこの日記には、著者の日常生活や読書記録、さらに世相から戦局の推移に至るまで敗戦に向かう日本の様相が重層的に描かれており、歴史の貴重な証言となっている。

一般書

◆イヌの心理学（マイケル・フォックス）◆西行花伝（辻邦生）◆人生勉強（群ようこ）◆物書同心居眠り紋蔵（佐藤雅美）◆朱い文箱から（岡部伊都子）◆人間の幸福（宮本輝）◆ビートでジャンプ（島敏光）◆仮面舞踏会（栗本薫）◆乱歩上・下（新保博久）◆夢にも思わない（宮部みゆき）◆二十世紀のパリ（ジュール・ベルノ）◆サーカスが通る（パトリック・モディアノ）◆戦中派天才老人・山田風太郎（関川夏央）ほか

児童書

◆グッディさんとしあわせの国（ルース・エインワース）◆かわいいナキウサギ（鈴木欣司）◆スプーンぼしとおっぱいぼし（八坂康麿）◆ぼくからみると（高木仁三郎）◆花・園芸の図詳図鑑（学習研究社）◆妖怪ポッコちゃん（菊地ただし）◆妖精王の月（O・R・メリング）ほか

☆６月のテーマ関連図書コーナー

☆親子読みきかせ会　『映画』　毎月第１金曜日14時30分～

☆中央図書館の休館日　６月18日、22日

大館の方言講座

食に関する言葉

◆アズキママ…煮ておいた小豆を米と炊いたもの

◆イモノコ…さといも

◆カヤギ…貝焼、帆立貝を鍋に利用した煮料理

◆ミナゴロシ…餅、これには次のような話が伝わっている。「ある日お客がきたので、歓迎するのにハンゴロシ（ぼたもち）にするかミナゴロシ（餅）にするか家で相談していたところ、客が半殺し・皆殺しと聞いて逃げ出した」

『大館市史』から